

## コピー、プリント用紙の削減

朝日新聞社は、大量の新聞紙を印刷している新聞社として、普段から紙を大事に使うことを全社の環境行動計画の重点項目にしています。このため、回章の電子化や書類保存の電子システム活用など、日常業務のペーパーレス化を進めてきました。

東京本社の 06 年度のコピー・プリント用紙とモニター・大刷用紙などを含めた全体の枚数は 4363 万枚で、05 年度と比較すると 70 万枚 (1.6%) 削減されました。

このうちコピー・プリント用紙は、A3 が 4,100 箱 (615 万枚)、A4・B4・B5 が 13,436 箱 (3359 万枚) の合計 17,536 箱 (3974 万枚) でした。これは 05 年度と比較すると 1,182 箱 (162 万枚) 増えたことになり、枚数で比較すると 4.3% 増になります。しかし、コピー・プリント用紙以外のモニター・大刷用紙などは 389 万枚で、05 年度と比較すると 232 万枚減の 37.4% 減になります。

大阪本社は、06 年度計画ではコピー用紙購入量の 3% 削減を掲げて取り組んできました。コピー用紙購入枚数は、A3 判約 174 万枚 (前年度比減約 3 万枚)、A4 判約 922 万枚 (同約 1 万枚)、B4 判約 31 万枚 (同約 13 万枚)、B5 判約 24 万枚 (同約 1 万枚) となりました。前年度に比べて総購入枚数で約 18 万枚減、1.6% の削減にとどまりました。

コピー用紙の購入は、ATOM システム稼動に伴う回章の電子化などで、日常業務のペーパーレス化が進んだものの、07 年に入り、統一地方選挙準備などで購入量が増えたため、目標値に達しなかったと思われます。

西部本社では、05 年度の年間消費量は小倉、福岡本部合わせて 12,505 冊 (500 枚/冊) で削減率はわずか 1% でしたが、06 年度は 10,891 冊 (前年度比 - 1,614 冊) で、削減率は 13% でした。一番消費量が多い A4 用紙は 17%、B4 は 29%、B5 は 19% とそれぞれ大幅な削減が達成できました。A3 用紙は次期システム移行によって、紙面大刷りを A2 判から A3 判の縮小大刷りへ切り替えたことでプラス 17% と、唯一使用量が増加しました。

年度半ばで次期システムが完全移行したことが大きな要因ですが、一人ひとりの節約意識が数字に表れていると考えられます。

名古屋本社では編集局で、次期システム下でのジョブフロー見直しとモニターや業務フロー化に合わせてレイアウトを効率的に配置するように努めました。製作センターでは、業務見直しの中で、自社組み面の大刷り、降版刷りの出力を止めました。各部門では、資料の電子化、共有化、両面印刷や保存に CD、MO を利用するように努め、全体では前年度比約 3.5% 減となりました。